

いのちをまもる 原発はわおる

いまだできることを
考える

原発再稼働が近づく今

あなたはどのような社会を描いていますか？

3月15日(日)午後1時30分(1時間場)～

場所 神戸青年学生青年センターホール

参加費300円

- ・ 中野哲演さん (かつて小浜市への原発誘致を市民・政党が一丸となって阻止した経験を語っていただきます)
- ・ 青田恵子さん (有線や「拝啓関西電力様」でご存知の方が多いと思います。福島南相馬からの避難されて来ています)
- ・ 望月逸子さん (詩、朗読)
- ・ 池島芙紀子さん (ストブ・ザ・もんじゅ代表、高校教師の職を30数年前に捨ててこの道一筋)
- ・ 高橋精巧さん (「縮小社会」のイメージを語っていただきます)
- ・ 煙山亨さん (福島からの自主避難者・ひきこもり相談支援センター)



国富の
喪失を
防ぐには
原発
停止こそ

高浜原発再稼働に関し高浜町議会は2月末に開かれる予定である。原発推進側は着々と手を打って来ている。私たちはそのような動きに対し、危険性と共に、破綻した古い手法によらない新しい社会の方向性を世間に訴えて行かねばならない。

政治家、や政党は当てにならない。なぜならグローバル経済の下では「国家」そのものが「資本」の使用人にされているからである。しかし、それは資本主義の時代が終りに





近い ことを意味している。東京電力の原発事故はその表れのひとつである。資本主義は「周辺」を収奪しなければ成り立たないシステムである。「周辺」である若狭湾一帯や福島を収奪することによって電力資本は利潤を上げてきたが、もはやそれが成り立たないことを予見しはしめしている。原発をまだ稼働させようとする資本家には「資本主義の終わり」が見えていないのであろう。リスクの高い技術によって低価格のエネルギーを生み出そうとする原発は、福島の人々の未来を奪っただけでなく、川内や高浜でまた同じことを繰り返そうとしている。

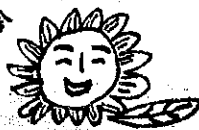
グローバル資本主義にはもはや「周辺」がなくなつた時点で崩壊して、一体どのような社会が到来するにしろ予想もしない「破局」が到来するだろう。我々はそのような「破局」が来る前に新しい社会が「よりゆっくり、より近くへ、より非合理に」(水野和夫)を主旋律とする社会の具体的像を提示する必要がある。

政治、社会、経済、技術は、また教育、保育、福祉どうなくてはならないのか？子どもや若者や、障がい者や高齢者はどんな社会を目指したいのか？再稼働に対し仲縄のような問い方は関西では無理なのか？

資本家の団結に対し労働者の団結は再びあるのか？市民の有機的つながりはもっと広範に、もっと強力に繋がるのが可能なのかを考えたい。

神戸子ども未来舎

田中英雄



〈問合せ先〉

090-3037-1955

〈主催〉

神戸子ども未来舎

主催 11のちを、こどもの未来を守りたいと思う市民
ふっろのおおあちゃんたち



018-851-2160

